

SPECIAL INTERVIEW

「ヴェリテ金剛ルネ クロスサイト」が目指すのは、さまざまな世代の人が出逢い、ゆるやかにつながるコミュニティ。

そのメインステージとなる「X-TERRAce(クロステラス)」の設計・施工に携わる株式会社長谷工コーポレーションの高橋豪志郎さんに、想いを語っていただきました。

人と自然に交わる喜びをつくる。
中庭を中心に、

マンションにも、「向こう三軒両隣」の暖かさを。

「世代を超え、人と人が自然につながるコミュニティをつくりたい」。そんな事業主の想いに触れたとき、強い共感を覚えました。わたしはある地方都市に生まれ、「向こう三軒両隣」という環境で育ちました。今振り返ると、近所のおとなやお年寄り日々顔をあわせることでいろいろなことを教わり、助けられながら成長してきたのだと思います。そして子どもの親となった今、頼れるお隣さんがいればどれだけ心強いだろうと実感することがよくあります。それは万一の災害発生時についても言えることです。

しかし今の日本では、特に都市部でコミュニティの力が弱くなっているように思います。家庭の次が職場で、かつてその間にあった近所とのつながりが失われつつあると感じているのです。そんな社会の在り方に違和感を持っていた自分にとって、多世代共生を目指す今回のプロジェクトはまたとない機会でした。

ともに思い思いの時間を過ごし、自然につながる。

ここに暮らす方どうしが自然に集まる機会を増やすには、どうすべきか?この自問に対する答えが「X-TERRAce(クロステラス)」です。これは次の三つの場所から構成され、一つは独立共用棟の「X-COMMONS(クロスcommons)」です。誰もがともにくつろげるラウンジやライブラリー、親どうしの交流も深めるキッズスペースなどの共用施設を、独立した建物に設けているのは322邸のスケールのマンションでは珍しいと言えるでしょう。二つ目は、住棟内に

配したプライベートな時間を楽しむ共用施設。そして三つ目が「X-TERRAce」の中心となる中庭です。「X-GARDEN(クロスガーデン)」と名付けたこの中庭にはある仕掛けがあり、それは動線を集約したことです。例えばエントランスから私邸へ、あるいはライブラリーから住棟内のテラスへ、マンション内を移動するときには必ず中庭かその周囲に巡らせた回廊を通るように工夫し、さまざまな世代の方の視線が自然に交わる仕組みを実現しました。

そして「X-GARDEN(クロスガーデン)」には人工芝を敷き詰め、誰もが気軽にくつろげ、人と人をゆるやかにつなぐ空間を創出しています。

子どもたちも、同じ感動を味わえるコミュニティ。

「ヴェリテ金剛ルネ クロスサイト」でどんな暮らしが始まるのか、想像するだけでワクワクしますね。ともあれ、ここに暮らす方がみんな仲のいいマンションになってほしいと思います。そして、このマンションがいつまでも、家族を連れて巣入りしたいと思う場所であってほしい。いつか「実家」に帰ってきて、昔自分が経験したこと、例えば「X-GARDEN(クロスガーデン)」に咲く花の名前を誰かに教えてもらったときの喜びを、子どもにも感じさせてあげられる。そんなコミュニティが続いていれば、それほどうれしいことはありません。



エントランスアプローチ完成予想図



株式会社長谷工コーポレーション
大阪エンジニアリング事業部 第2設計室
高橋 豪志郎 氏